

「家がいいね」 第22号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2007.1.5

穏やかな陽気の年頭です。死ぬ時を決め急いで焦っていた方への往診をふと思ひ出します。短く潔いだけが価値ではなく、舞台を去る時の花道のようなあの「間合い」があればと考えていました。

生命は

自分自身だけでは完結できないように

つくられているらしい

花も

めしべとおしべが揃っているだけでは

不十分で

虫や風が訪れて

めしべとおしべを仲立ちする

生命は

その中に欠如を抱き

それを他者から満たしてもらったのだ

世界は多分

他者の総和

しかし

互いに

欠如を満たすなどは

知りもせず

知らされもせず

ばらまかれていている者同士

無関心でいられる間柄

ときに

うとましく思つたことも許されている間柄

そのように

世界がゆるやかに構成されているのは

なぜか

花が咲いている

すぐ近くまで

虻(あぶ)の姿をした他者が

光をまとって飛んできている

私も あぶとき

誰かのための虻(あぶ)だったろう

あなたも あぶとき

私のための風だったかもしれない



初夢

癌で在宅療養をしている患者さんの言葉が頭に残っていたらしく、変わった初夢を見ました。大臣以下、厚生労働省の役人の必要条件是、重病体験をした人に限られるというのです。そして財務省など政府高官は、余命いくばくもない人が選ばれ、人生最後を「生きる」という仕事に取り組みます。この人たちの大半は都会ではなく、片田舎の住人です。居ながらにして自分の意思を伝えられるのは、今や田舎でも難しくない技術です。後継を選ぶ責任は、別の土地で一隅を照らす人を見つけないで果たされます。お金で済ませようとしないで、伝えて残すものが大切と言われます。これは正夢になってもいいなあと思いました。

「自殺予防」公開講座のお知らせ

三重いのちの電話協会 主催 (無料)

自殺予防の基礎知識

ー「こころの風邪に気をつけてー

講師：高橋祥友(よしとも) 先生・精神科医

2月3日(土) 13時半～15時半

外宮前 いせシティプラザ 2階ホール



命が軽く扱われ、交通事故死の数の年間3万を超える人が自殺しています。自殺は意志で選択されるといふより、強制された死です。未遂まで考えると目をつむってはいけない事態です。残された家族は更に深い心の闇を生き続けなければなりません。つながる気持さえあれば、「死にたい」と考えても、きつと明日は来ると思えます。予断や偏見にとらわれない「自殺予防の基礎知識」を、第一人者の先生にお聞きする絶好の機会です。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>